

ハビタット植物図鑑とは

ハビタット植物図鑑とはある地域において自生する植物と、それを利用する生物の“繋がり”に着目して図鑑にまとめたものである。当研究室は平成14年以降、毎回異なる対象地でハビタット植物図鑑を作製している。

※ハビタットとは、生息環境という意味で営巣環境や、採餌、繁殖空間、自生環境などのことを指す。

〈歴代のハビタット植物図鑑〉



ハビタット植物図鑑の活用例

例:湿地、水辺に生息する動物を保全したい場合

- ①湿地、水辺を対象としたハビタット植物図鑑を利用する
- ②保全したい動物を選びその動物が利用している植物を調べる(例では食物に着眼している)

●ニホンアカガエルの場合

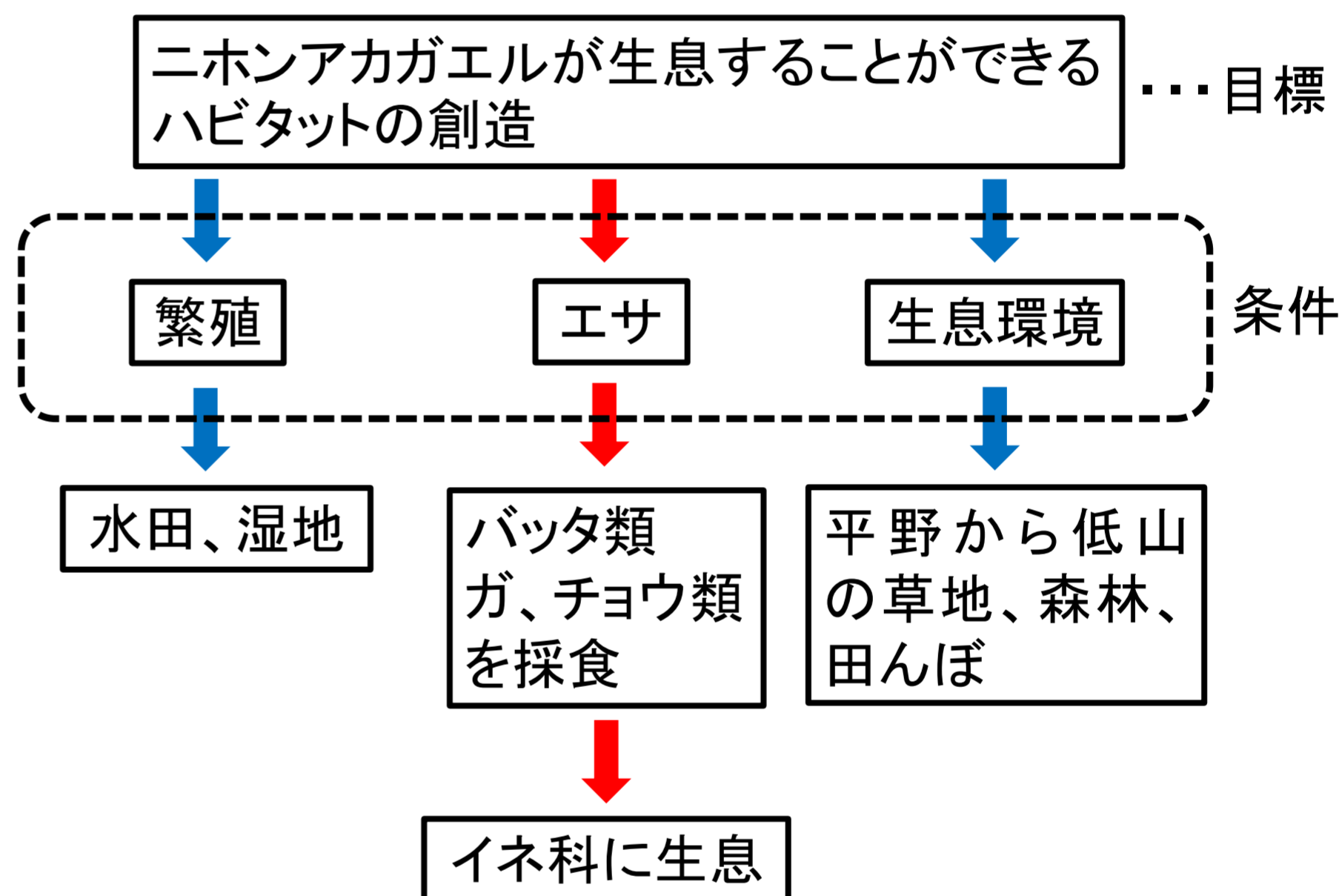


和名	ニホンアカガエル
学名	<i>Rana japonica</i>
分類	無尾目アカガエル科
分布	本州(隠岐を含む)、四国、九州(大隈諸島)

生息環境	平野から低山の草地、森林、田んぼ	出現時期	一年中みられる
------	------------------	------	---------

大きさは35～75mm。
落ち葉の下にいる小さな節足動物などを食物にしている。
キュッキュッキュッとこもるような声で連続して鳴く。

〈ニホンアカガエルと植物の関連性〉



ハビタット植物図鑑作成の背景

近年、開発事業により動植物の生息環境は消失や分断、孤立が起きている。この問題に対して自然を単に保護するだけでなく、自然環境の復元や創造を行う必要がある。その時に必要となるものが「保全対象である動物は植物とどのような関連性を持っているか」という情報である。

ハビタット植物図鑑を作る目的

自生している植物とそれを利用している生物の繋がりを整理して、自然環境を保全するための資料を作ることを目的としている。また、ハビタット植物図鑑の作成を通して動植物に関する知識を深める。

研究方法

- ・対象地の動植物についての文献調査
- ・動植物の観察と同定
- ・ハビタットの関連性を整理



〈現地での観察、同定作業の様子〉



和名	エノコログサ
学名	<i>Setaria faberi</i>
分類	イネ科エノコログサ属
分布	北海道、本州、四国、九州、沖縄

自生環境	畑、荒地	性質	一年草
------	------	----	-----

草丈が20～70cmの一年草。葉の付け根に毛が生えている。外見が狗(エノコ)つまり子犬の尾に似ていることからこの名がつけられた。

- ③ハビタット植物図鑑を利用することによって、対象種と植物が関連していることが分かり保全を行う際の資料となる